

変化に富んだ稜線上は、女峰までで既に満腹

カモシカルートも雪が積もれば新世界

16日(土) 晴

07:50 霧降高原P発
08:50 小丸山
10:45 赤薙山
12:15 奥社跡
13:50 2295 ピーク
14:15 水場
17:50 女峰山
18:35 唐沢小屋 着
21:00 就寝

17日(日) 晴

06:15 起床
08:10 唐沢小屋 発
09:20 林道
10:35 志津峠
12:35 三本松 着
...その後
中宮祠前へバスで移動(¥550)
温泉に入らず飯も食わずに
宇都宮に帰る。

2006年12月16日(土)~17日(日)

メンバー

小島 弘幸 (CL)

石賀 雅浩 (記録)



腰まで埋まる雪を掻き分けて...

冬合宿の準備山行としてある程度の距離を走破することを目的に、冬装備を担いで1泊2日の縦走を設定。冬合宿に同行する雪山好きのゴジの飛躍に期待し、リーダーを依頼。ルートは溪嶺定番のカモシカ(霧降~女峰~男体~中禅寺湖)を選択し、準備もゴジに全て任せる。2年前の同時期に同様のルートに挑戦した時は初歩的なミスで富士見峠までの往復になってしまったが、今回は前週の日光白根の雪の少なさを考慮すれば初日に鷹ノ巣までは行けるものと楽観視していた。

12月16日(土)

風もなく天気は良好。霧降から見る小丸山は雪が殆どなく、土気も揚々。しかし、前夜の就寝が遅い分6時出発の予定が8時に。この2時間の遅れが後々響くことになる。出発直後「スキー場を登らないんですか?」との素朴なゴジの質問に登山道の方が楽だよと説得?ゴジは初体験ルートであった。小丸山に到着する前から体が



奥社跡にて...まだ気持ちは余裕あり

熱くなり、途中で私は早くも長袖アンダー1枚に。赤薙山まではひたすら上りにつき、いつも苦手意識。ゴジとはどんどん間隔が離れる。若いってスバラシイ。などと身勝手な言い訳を考えながら森林帯に突入する。雪が積もり滑りやすい樹林帯はジグザグにルートをとって、赤薙山頂に到着。この先奥社跡までは普段以上に疲れながらも順調に進む。ただし奥社に着いた時は既に正午を過ぎていた。



小丸山より赤薙山へ向けて

奥社跡から水場までは高低差のない楽チン歩きと思っていたら、深さはさほどないものの不安定な雪に徐々に体力が奪われ、水場の前のピークに着く頃には既にヘトヘト。500mlペットボトルの水も空になる。ピークからの下りはサラサラの雪がつき、足もとが決まらず落ちるように下りる。途中ザックが木に引っ掛かって宙ぶらりんに、はたまたバランス崩して前転着地。怪我の心配はないものの、背の中まで雪まみれになりチと後悔。まあ水場に行けばリセットできると期待したが、水場に着くなり「聞いてないよ」とまで言うほど落胆。パイプの中からは水ではなく、氷柱が出てきた。



水場からは氷柱が...

水場を2時半に出発。まだ女峰の頂上には明るいうちに着けると信じていた。だが倒木を跨いだり岩を登ったりとちょっとした変化にいちいちワカンを脱着するのが面倒で、ツボ足で突き進んだのが災いしてかテンポが非常に悪い。1時間が過ぎてても女峰の頂きはまだ遙か先。丸々と赤い綺麗な夕日が女峰の裏に沈みかける姿を見ながら、そろそろ風避けにとジャケットを着る。今日は持久戦だ。このあとおよそ10分置きに先頭を交代。急登のガレ場の手前で先頭をゴジにタッチ。ゴジには、



ガレ場を意欲的に登るゴジ



女峰直前...ワカン着ければよかった

「ガレ場はゆっくりでいいから慎重に」とだけ言うのが精一杯であったが、コジは淡々と抜けていった。自分にもここさえ抜ければ後は楽な上りが待っている...と前向きに突破するがその願いは裏切られ、ガレ場の先からが本当の試練のラッセルのオンパレードとなる。コジも失意？を隠せず、ガレ場の通過直後にぶっ倒れていた。腰まで足が踏み抜ける雪に苦戦しながらあともう少しだと思ってピークに行くが、頂上は未だ遠くにあるではないか。遅すぎる切り替えではあるがやっとワカンを装着。するとスピード倍増、15

分で祠に到着する。気温は氷点下12度であったが風は弱くて寒くはなく、祠の前で元気に記念撮影。なにはともあれ達成感にちょっと酔う。

暗くなってからの足場の悪い帝釈山への下降は、ロープを持っていないので時間も読めず無謀と判断。祠より先は見向きもせず、あっさり唐沢小屋へエスケープすることにする。東の稜線に比べれば南斜面の積雪はせいぜい20センチ程度。踏み跡もあり。急下降の連続にすぐにワカンが邪魔になり外す。下りはなんて楽なんだ。6時半、唐沢小屋に到着。

小屋の中でテントが張れるのは軟弱だがうれしい。先客が1人泊まっていたので、静かに準備をして到着1時間後にビールで乾杯。夕飯は各自で持ってきた食糧を全部並べて晩と朝のメニューを決める。今晚はクリームシチュー。飯はキレイに平らげたが、昨夜500mlを2缶も空けたコジは、3缶も持ってきた350mlの1缶も飲みほしきれずに天を仰いで目を閉じてしまう。私は朝飯用に水を作ってからと思いつつも横になったら最後であった。



真っ暗になった女峰の祠の前にて



12月17日(日)

起床6時15分...今日も寝坊。出発も予定より1時間遅れの8時過ぎ。唐沢小屋よりまずは志津を目指して森林帯を下降。途中の水場は昨日の稜線にあった定番とは異なり、豊富な量を湛えている。重いザックを下ろすのが面倒で、体制が悪くても背負ったままなんとか頑張って飲む。うまい。また出発して30分で今日も体が熱くなり、服を調整。コジはジャケットを脱いで3枚に。意外と寒がり判明。私は当然アンダー1枚に。コレで十分。出だしは順調、裏見の滝への分岐までは難なく下りたが、直後の上り返しが非常にきつい。やっとこさ林道へ出るが林道歩きもかたたく、ちょっとした上りでも思いのほか体が重く、足も動かず。

志津に10時半過ぎに到着。今日は大真子・小真子をシートカットして予定のコースに復帰するつもりであったが、頂上が雲に覆われて見えぬ男体山を見ながらおおよその時間を想定。今日も下山は夜になりそうで、ここはリーダーのコジに判断を任す...意地悪がっちゃん？。コジは明日がある身であり、残念だが今回は回避することに。またも寝坊が悔やまれた。何はともあれ三本松へと進路を変更し、下山した。



アホなポーズが好きなコジ



三本松でコーラを飲みながらバスを待つ

今回の山行の教訓。寝坊は三文以上の損である。夜に挽回しようとして歩いても翌日少なからず影響が出ることが判かり、下山時以外は得策ではない。2人でのラッセルは共に負の領域になると全然進まなくなり厳しい。以上を総合すると、何日もかかりそうな皇海～白根には最低もう1人は欲しい。それが総評...あまいなあ～。